

平成24年度第3四半期までの  
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと  
今後の課題について

平成24年10月31日  
社団法人 日本酪農乳業協会  
需給委員会 (第3回：10月26日開催)

# 1. 地域別生乳生産量の動向

## 【生乳生産量予測の前提】

- ・都府県及び全国の予測値は、指定団体ブロック別の生乳生産量予測値を合算して算出。
- ・指定団体ブロック別の予測値は、過去の生乳生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や乳牛頭数等を組み込んだ予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。
- ・平成 24 年度の気温は、平年並で設定している。

表 1：平成 24 年度上期 地域別生乳生産量（見通し）

	全 国		北海道		都府県	
	前年比	前年比	前年比	前年比		
4 月	649	103.3%	325	100.6%	324	106.1%
5 月	671	101.4%	340	101.0%	332	101.9%
6 月	642	102.1%	331	101.0%	311	103.4%
7 月	644	103.3%	338	102.3%	306	104.4%
8 月	630	102.5%	334	102.4%	296	102.6%
9 月	604	101.6%	318	101.6%	286	101.5%
10 月	627	101.2%	328	101.8%	299	100.5%
11 月	604	100.2%	314	101.1%	290	99.3%
12 月	633	99.9%	328	101.0%	304	98.8%
第 1 四半期	1,963	102.3%	996	100.9%	966	103.7%
第 2 四半期	1,878	102.5%	989	102.1%	888	102.9%
上期	3,841	102.4%	1,986	101.5%	1,855	103.3%
第 3 四半期	1,864	100.5%	970	101.3%	894	99.5%
合計	5,704	101.7%	2,956	101.4%	2,748	102.1%

## 概要

24 年度上期の生乳生産量は、23 年度後半に続き、前年度を上回って推移した。第 3 四半期においても、伸び率は鈍化するものの、引き続き前年度を上回って推移するものと見込まれる。

なお、都府県における 4 月の前年比が大幅な増加を示しているのは、東日本大震災の影響によるものである。

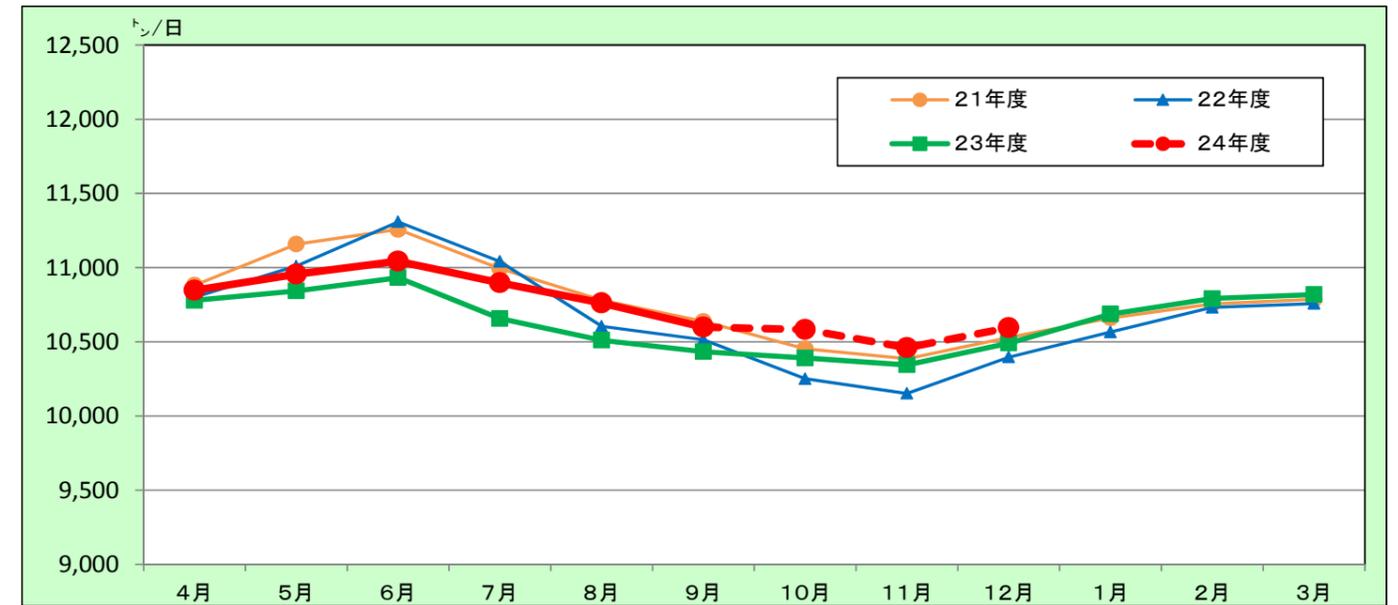
## 【生乳生産量の見通し】

24 年度は、本年度の生乳計画生産数量が前年度実績以上で配分されたこと等による生産者の意欲向上にも伴い、飼料給与量・1 頭当たり乳量が増加傾向で推移していることや、総飼養頭数は減少傾向にあるものの、生産の中心となる 2～4 歳の飼養頭数が増加傾向で推移していること等から、直近までの生乳生産量は前年度を上回って推移した。

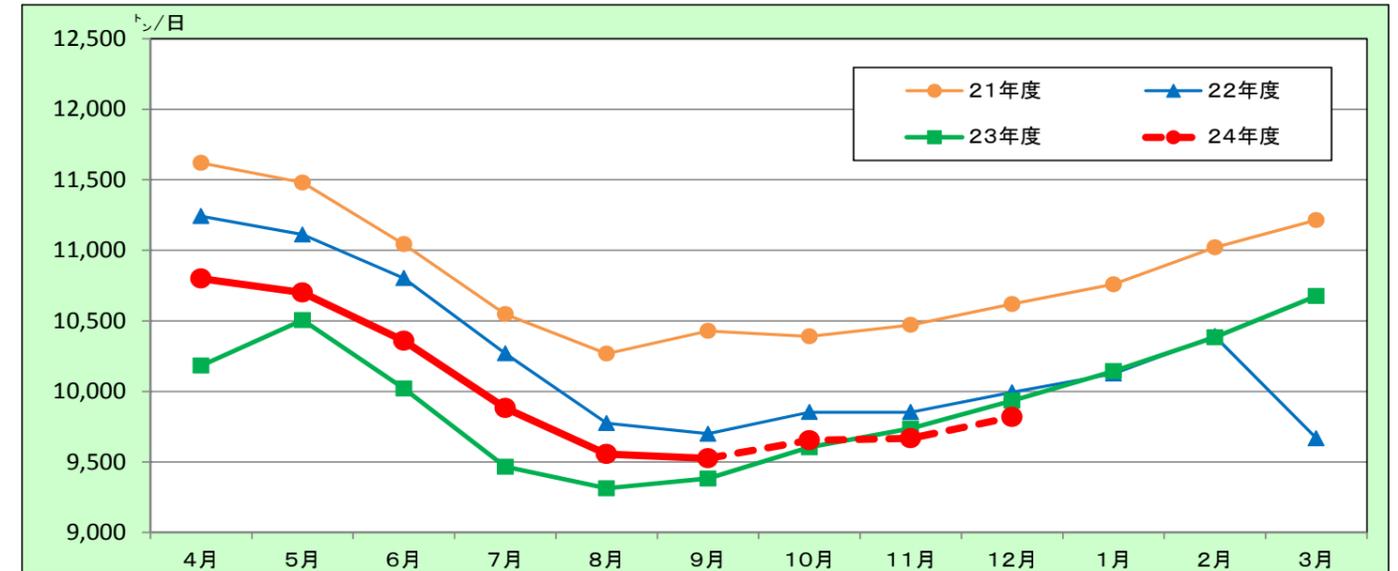
第 3 四半期においても、2～4 歳の飼養頭数は引き続き前年度を上回っての推移が見込まれることや、本年度の自給飼料の作柄が比較的良好であったこと等もあり、23 年度上期の生乳生産量が比較的低調で下期から回復傾向にあったことから前年比では伸び率は低下するものの、北海道では前年度を上回って推移、都府県でも前年同程度で推移すると見込まれる。

24 年度上期の実績及び第 3 四半期以降の現在の予測を 1 月公表時の 24 年度予測と比較してみると、北海道については、上期実績は当初予測並みであるものの、第 3 四半期以降は現在の予測の方がやや上回っている。都府県については、上期実績と第 3 四半期以降の現在予測のどちらも当初予測を上回っている。これらの要因としては、各地域において、搾乳牛導入が推進される等、増産対策が積極的に図られたことによるものと考えられる。

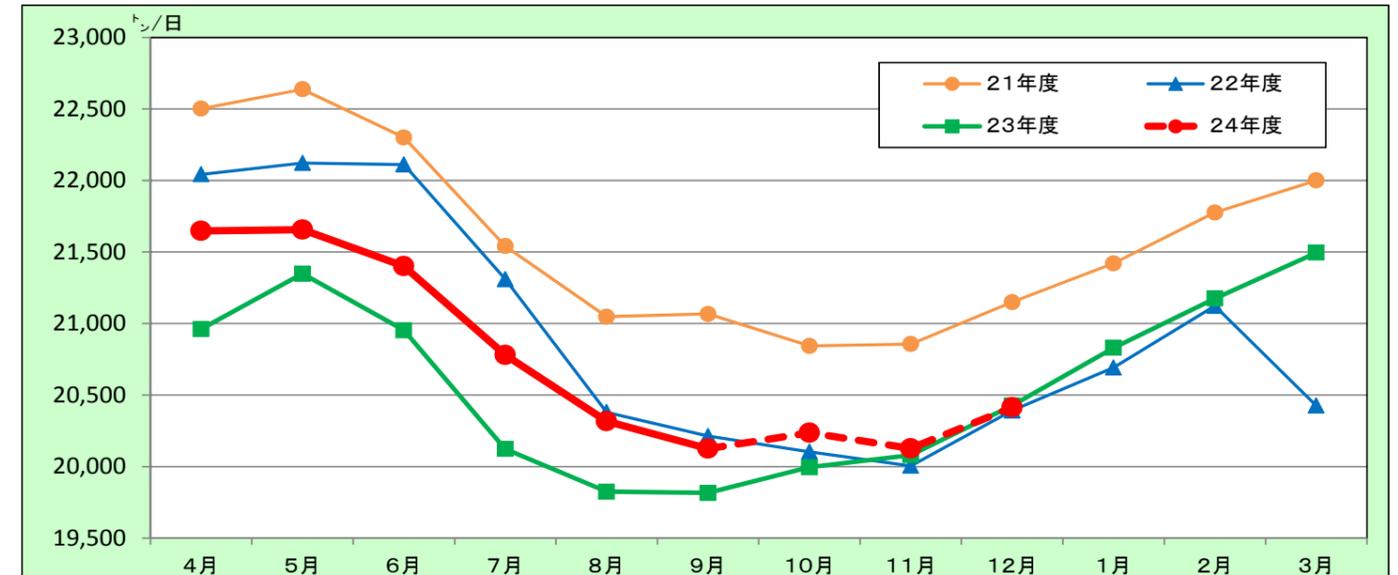
グラフ 1-1：北海道の生産量（日均量）



グラフ 1-2：都府県の生産量（日均量）



グラフ 1-3：全国の生産量（日均量）



## 2. 牛乳等生産量の動向

### 【牛乳等生産量予測の前提】

- ・各々の予測値は、過去の生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や平日日数等を組み込んだ予測モデル(ARIMA モデル)による推計値を基本に算出。
- ・平成 24 年度の気温は、平年並で設定している。

表 2：平成 24 年度上期 牛乳等生産量（見通し）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	394	98.2%	247	97.4%	13	71.1%	30	106.2%	103	102.7%	86	127.2%
5月	423	98.3%	264	97.8%	13	79.7%	32	96.5%	114	102.8%	89	124.1%
6月	422	97.8%	264	97.5%	11	71.1%	31	93.2%	116	103.6%	86	110.2%
7月	434	99.3%	263	100.3%	12	68.6%	33	93.8%	126	102.8%	86	112.7%
8月	420	99.2%	244	99.2%	11	69.3%	34	93.4%	130	104.6%	83	112.5%
9月	443	99.3%	274	100.9%	11	69.5%	32	93.3%	125	101.6%	84	110.7%
10月	431	98.5%	271	99.5%	11	71.5%	30	91.5%	119	101.7%	83	110.8%
11月	398	97.5%	255	98.7%	10	66.4%	27	89.9%	105	101.4%	77	107.8%
12月	377	97.4%	241	98.6%	10	64.3%	26	88.0%	100	102.7%	73	109.5%
第1四半期	1,239	98.1%	775	97.6%	38	73.9%	93	98.3%	333	103.1%	261	120.1%
第2四半期	1,296	99.2%	782	100.2%	35	69.1%	99	93.5%	381	103.0%	253	112.0%
上期	2,536	98.7%	1,557	98.9%	72	71.5%	192	95.8%	714	103.1%	514	116.0%
第3四半期	1,206	97.8%	767	99.0%	32	67.4%	84	89.9%	324	101.9%	233	109.4%
合計	3,741	98.4%	2,324	98.9%	104	70.2%	276	93.9%	1,038	102.7%	748	113.8%

### 概要

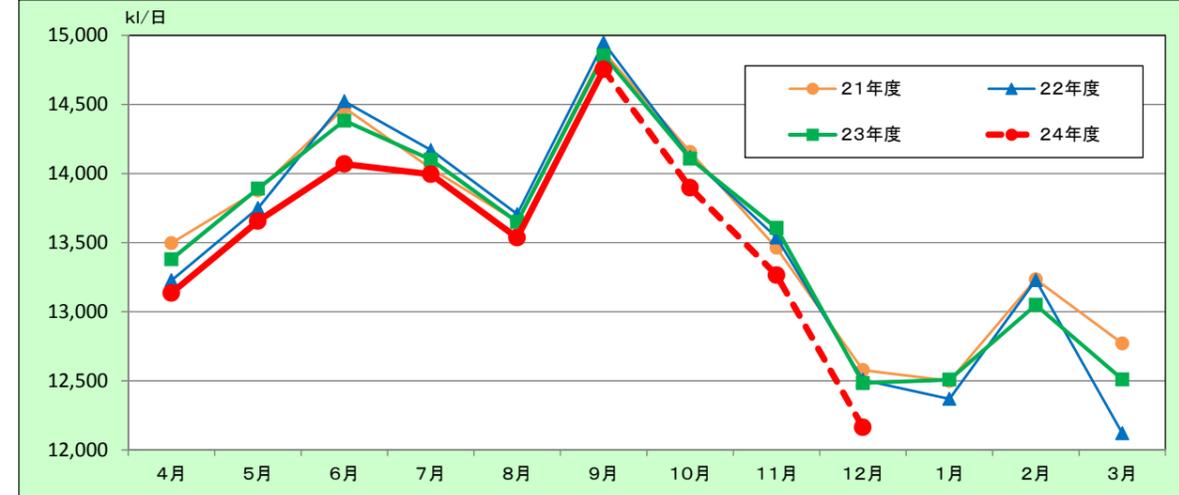
24年度上期の牛乳等の生産量は、乳飲料が好調だったものの牛乳類全体では前年度を下回って推移した。第3四半期においても、これまでと同様の傾向で推移するものと見込まれる。なお、はっ酵乳は今後も堅調に推移するものと見込まれる。

### 【牛乳等生産量の見通し】

牛乳等の生産量（需要量）は、第3四半期においても、上期までと同様の傾向で推移するものと見込まれ、種類別に見ると、「牛乳」は前年比 98～99%程度の減少傾向で推移、「加工乳」は大幅に前年度を下回って推移、「成分調整牛乳」も大幅に減少した 23年度を更に下回って推移するものと見込まれる。対して、「乳飲料」は大きく増加した 23年度を更に上回って推移するものと見込まれ、これら「牛乳」「加工乳」「成分調整牛乳」「乳飲料」を合算した牛乳類全体では、前年度をやや下回る 98%程度の水準で推移するものと見込まれる。

なお、「はっ酵乳」は、これまで増加基調にあったものが 23年度後半に更に大幅に増加し、24年度上期も好調に推移しており、第3四半期においても、伸び率はやや鈍化するものの、引き続き好調に推移するものと見込まれる。

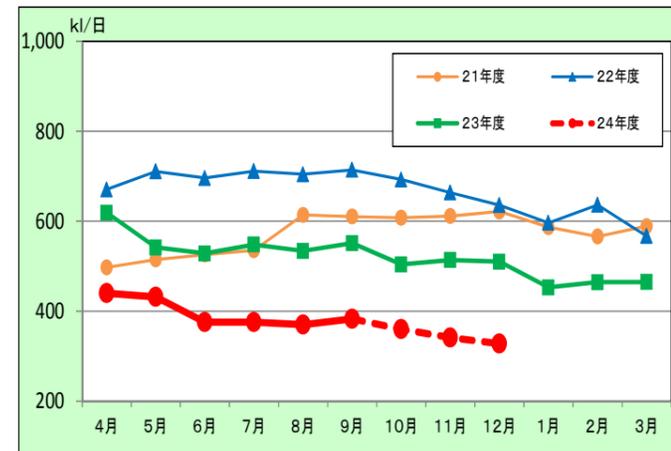
グラフ 2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



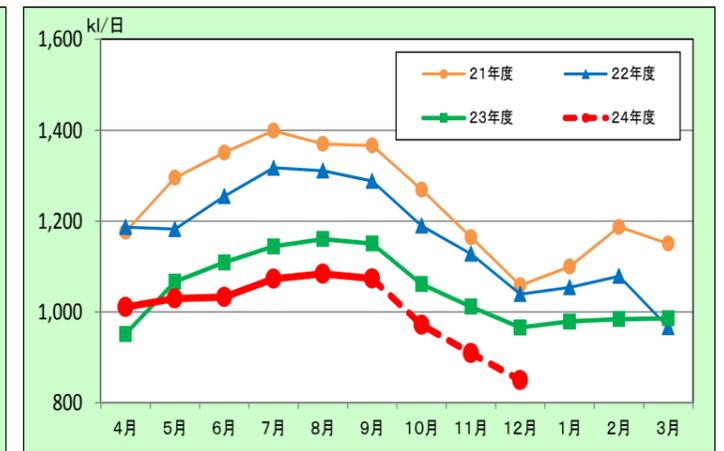
グラフ 2-2：牛乳の生産量（日均量）



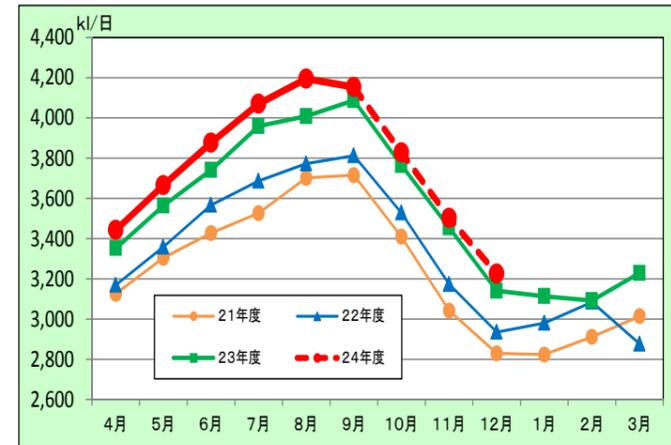
グラフ 2-3：加工乳の生産量（日均量）



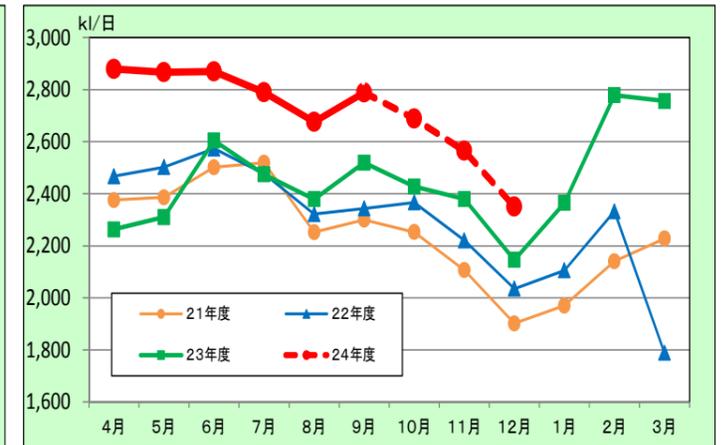
グラフ 2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



### 3. 用途別処理量の動向

#### 【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3：平成24年度上期 生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

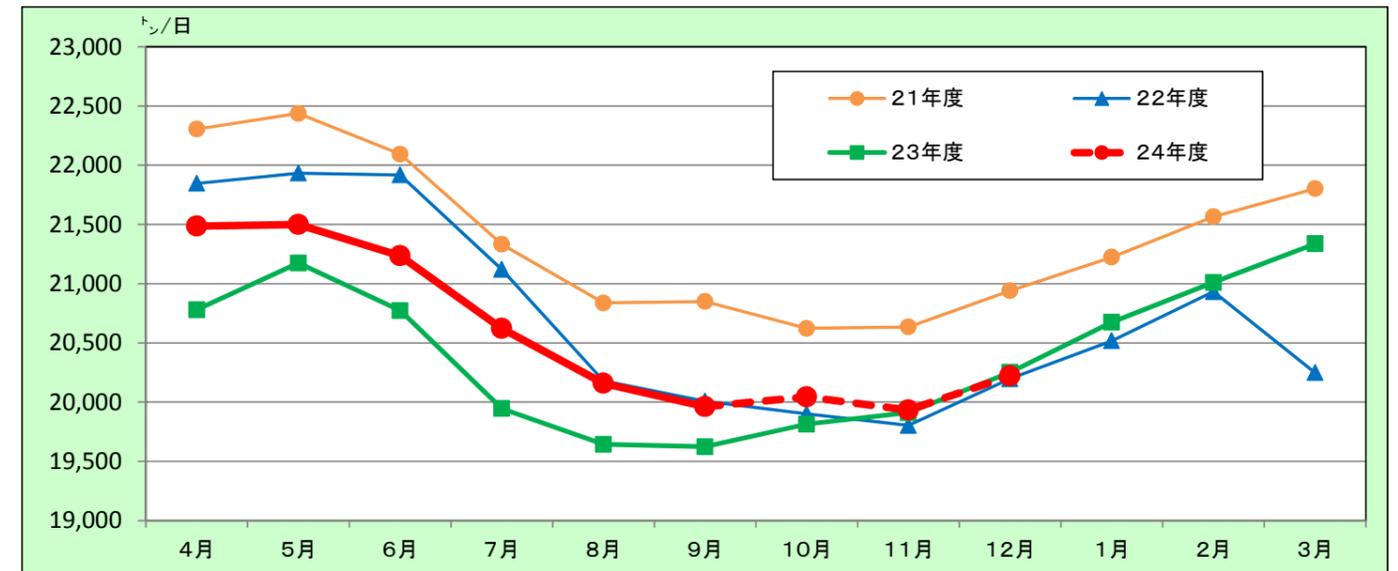
	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比								
4月	649	103.3%	5	89.6%	645	103.4%	329	98.0%	316	109.7%
5月	671	101.4%	5	89.1%	667	101.5%	351	97.8%	316	106.0%
6月	642	102.1%	5	92.5%	637	102.2%	351	99.9%	286	105.3%
7月	644	103.3%	5	89.1%	639	103.4%	348	97.3%	291	111.8%
8月	630	102.5%	5	87.5%	625	102.6%	332	98.1%	293	108.2%
9月	604	101.6%	5	84.8%	599	101.7%	361	100.5%	238	103.7%
10月	627	101.2%	5	94.0%	622	101.3%	351	99.9%	271	103.2%
11月	604	100.2%	5	100.0%	599	100.2%	333	98.8%	266	102.0%
12月	633	99.9%	5	92.6%	628	100.0%	313	98.9%	314	101.1%
第1四半期	1,963	102.3%	15	90.4%	1,948	102.4%	1,031	98.6%	917	107.0%
第2四半期	1,878	102.5%	15	87.1%	1,863	102.6%	1,041	98.6%	822	108.1%
上期	3,841	102.4%	29	88.7%	3,811	102.5%	2,072	98.6%	1,739	107.5%
第3四半期	1,864	100.5%	15	95.4%	1,849	100.5%	998	99.2%	851	102.1%
合計	5,704	101.7%	45	90.9%	5,660	101.8%	3,070	98.8%	2,590	105.7%

#### 【用途別処理量の見通し】

24年度上期においては、生乳供給量が前年度を上回って推移したのに対し、牛乳等向処理量が前年度を下回って推移したことから、乳製品向処理量は前年度を上回って推移した。

第3四半期においても、乳製品向処理量は引き続き前年度を上回って推移するものと見込まれる。しかしながら、年末にかけての乳製品の最需要期を迎えるにあたっては、需要量は上下に振れる可能性もあることから、これからの需給動向には引き続き注視していく必要がある。

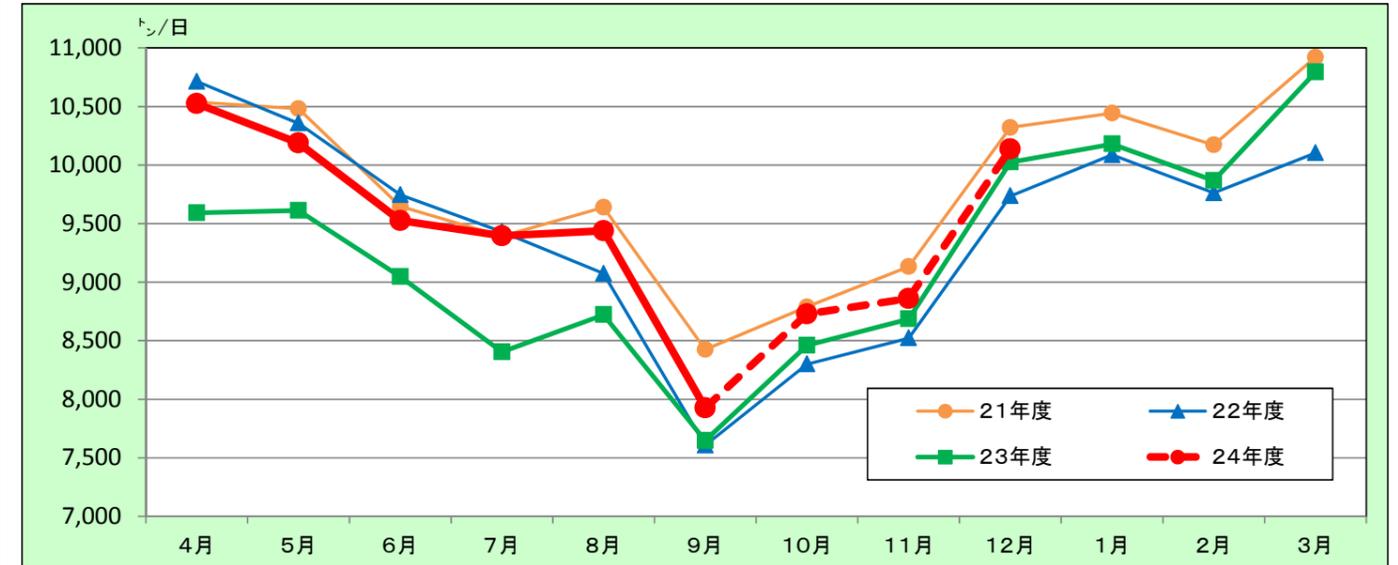
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



#### 4. 都府県の生乳需給の動向

##### 【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出。
- ・「移入量」は、下記2点の基本的考え方にに基づき設定。
  - ① 都府県で製造する北海道ブランド牛乳のために、必要な移入量は必ず発生するものとして設定。
  - ② 生乳需給上、ある程度の特定乳製品向処理量は必ず発生するものとして設定。

表4：平成24年度上期 都府県の生乳需給（見通し）

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (道外移出量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比		前年比	
	4月	322	106.3%	284	96.8%	16		113.8%	22		20	76.1%
5月	329	101.9%	305	97.2%	14	97.7%	11	22	77.6%	0	32	138.0%
6月	308	103.4%	305	99.6%	14	105.5%	-11	29	81.1%	0	18	129.0%
7月	304	104.5%	301	97.5%	15	111.7%	-12	32	74.0%	0	20	164.1%
8月	294	102.7%	285	98.9%	16	118.6%	-8	31	90.8%	0	23	129.4%
9月	283	101.7%	313	100.6%	14	102.0%	-44	51	95.6%	0	7	99.2%
10月	297	100.6%	305	100.2%	16	108.5%	-25	38	98.4%	0	13	94.3%
11月	288	99.3%	288	99.1%	17	108.4%	-18	32	108.5%	0	15	114.5%
12月	302	98.9%	271	99.1%	19	108.4%	13	21	99.3%	0	34	92.5%
第1四半期	959	103.8%	894	97.8%	44	105.5%	21	71	78.5%	0	92	155.9%
第2四半期	881	103.0%	900	99.0%	46	110.6%	-64	114	87.1%	0	50	135.0%
上期	1,840	103.4%	1,793	98.4%	90	108.0%	-43	186	83.6%	0	142	147.8%
第3四半期	887	99.6%	864	99.5%	52	108.4%	-30	91	102.0%	0	61	97.3%
合計	2,727	102.1%	2,657	98.8%	142	108.2%	-73	276	88.9%	0	204	127.9%

##### 【都府県の生乳需給の見通し】

24年度上期においては、北海道から都府県への生乳移入量（道外移出量）は、都府県における生乳生産量の増加と牛乳等向処理量の減少から、前年度を下回って推移した。

第3四半期は、都府県の生乳生産量が前年度と同程度で推移すると見込まれていることから、北海道からの生乳移入の必要量は、前年比で見ると上期よりはやや増加傾向で推移すると見込まれる。

#### 5. 特定乳製品需給の動向

##### 【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・特定乳製品向処理見込数量は、乳製品向処理量からその他乳製品(生クリーム等・チーズ)向処理見込数量を差し引いて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの消費量は、過去の実績データの動向パターンに基づく、価格や代替関係にある乳製品の処理見込数量等を変数に組み込んだ予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・乳製品の在庫月数は、当該月の在庫量を前年度の一ヶ月平均の消費量で割ることで算出している。

表5：平成24年度上期 脱脂粉乳の需給（見通し）

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
	4月	13.3		106.7%			12.7	98.3%	0.5
5月	12.6	99.1%		12.5	98.8%	0.1	48.2	4.0	82.9%
6月	10.4	98.5%		11.5	81.8%	-1.1	47.1	3.9	86.1%
7月	10.4	119.8%		12.6	96.7%	-2.2	44.9	3.7	89.2%
8月	10.6	113.0%		12.4	97.9%	-1.7	43.2	3.5	91.6%
9月	7.7	97.8%		11.1	92.1%	-3.4	39.7	3.3	92.6%
10月	9.3	96.7%		11.7	96.9%	-2.4	37.3	3.1	92.3%
11月	9.6	92.9%		11.0	93.9%	-1.3	36.0	3.0	92.0%
12月	13.3	93.2%		11.5	99.5%	1.8	37.8	3.1	90.3%
第1四半期	36.2	101.6%		36.7	92.6%	-0.5	47.1	3.9	86.1%
第2四半期	28.8	110.7%		36.1	95.6%	-7.4	39.7	3.3	92.6%
上期	65.0	105.4%		72.9	94.1%	-7.9	39.7	3.3	92.6%
第3四半期	32.2	94.1%	0.0	34.2	96.8%	-1.9	37.8	3.1	90.3%
合計	97.2	101.4%		107.0	94.9%	-9.9	37.8	3.1	90.3%

グラフ5-1：脱脂粉乳の消費量及び在庫量（四半期毎）

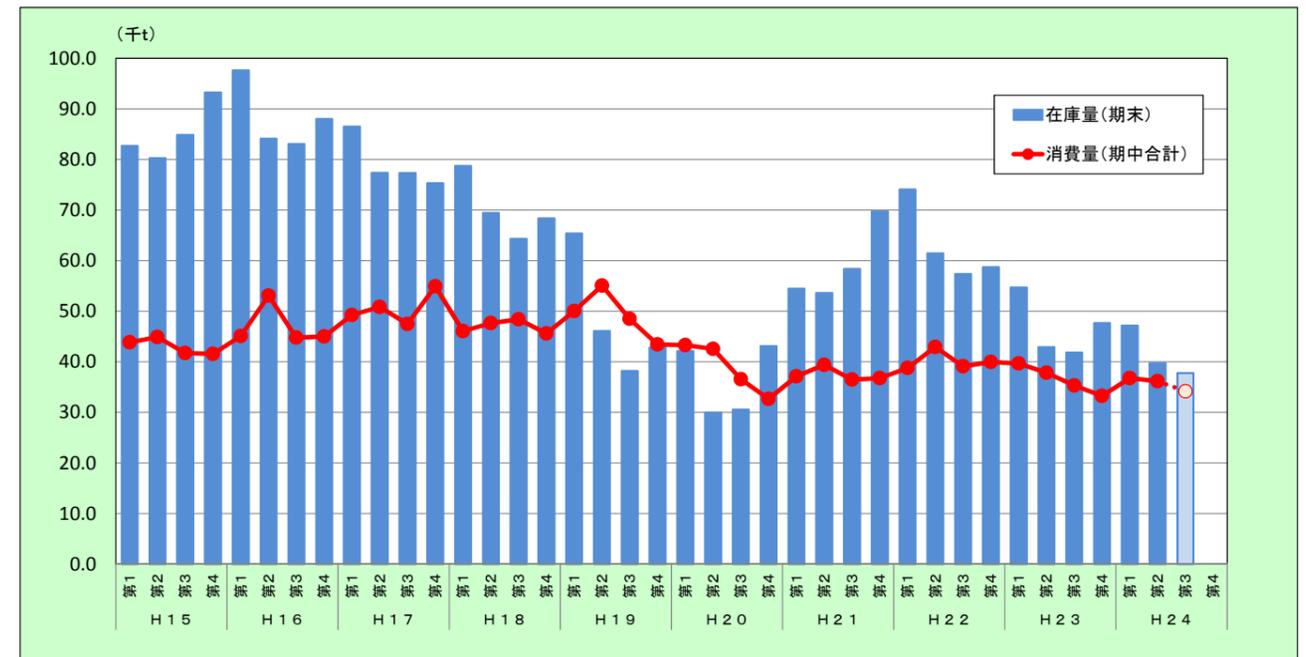
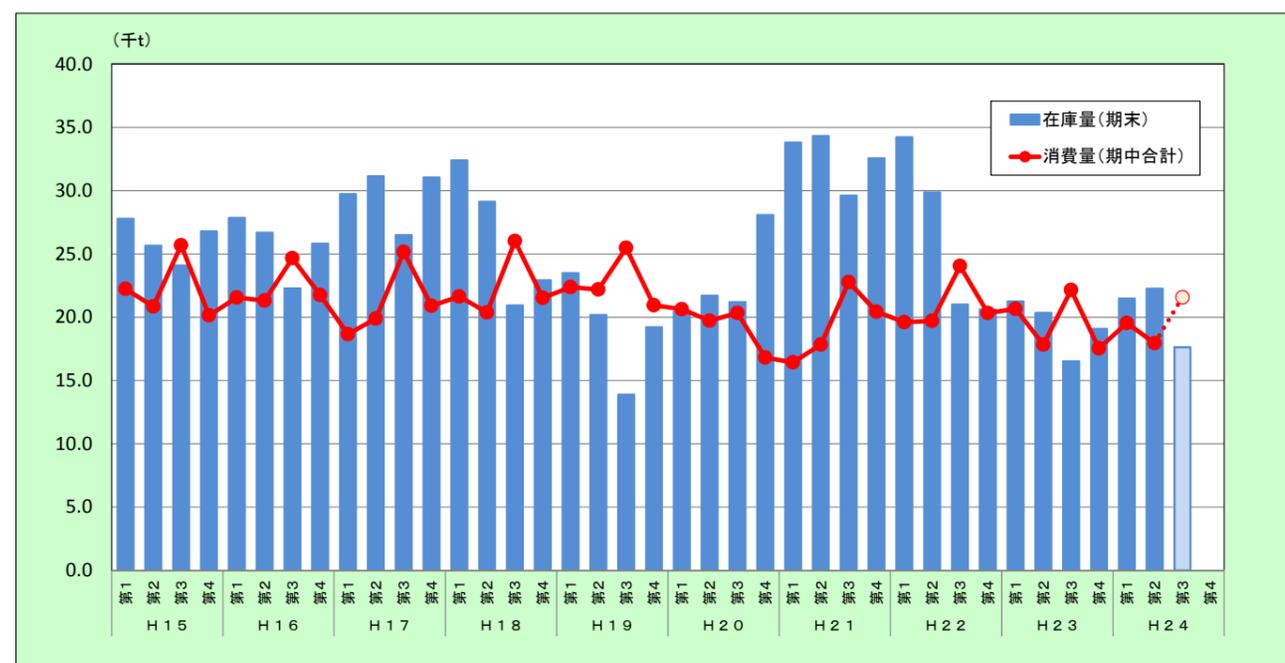


表6：平成24年度上期 バターの需給（見通し）

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
4月	6.7	119.1%		6.4	92.1%	0.4	19.4	3.0	100.5%
5月	6.5	110.7%	1.3	6.3	93.5%	1.4	20.9	3.2	100.7%
6月	5.5	110.9%	1.9	6.8	98.1%	0.6	21.5	3.3	101.1%
7月	5.4	126.3%	0.7	6.2	84.3%	-0.0	21.5	3.3	102.5%
8月	5.6	124.8%	0.9	6.0	95.0%	0.6	22.0	3.4	105.1%
9月	3.7	107.0%	2.3	5.8	78.1%	0.2	22.3	3.4	109.4%
10月	4.5	106.4%	0.2	6.4	92.8%	-1.7	20.6	3.2	104.5%
11月	4.3	102.1%	2.0	7.1	95.2%	-0.7	19.8	3.0	106.7%
12月	6.0	102.7%		8.2	103.5%	-2.2	17.6	2.7	106.8%
第1四半期	18.8	113.6%	3.2	19.5	94.6%	2.4	21.5	3.3	101.1%
第2四半期	14.7	120.3%	4.0	17.9	100.6%	0.8	22.3	3.4	109.4%
上期	33.5	116.5%	7.2	37.5	97.4%	3.2	22.3	3.4	109.4%
第3四半期	14.7	103.6%	2.3	21.6	97.4%	-4.6	17.6	2.7	106.8%
合計	48.2	112.2%	9.4	59.1	97.4%	-1.4	17.6	2.7	106.8%

グラフ6-1：バターの消費量及び在庫量（四半期毎）



【特定乳製品（脱脂粉乳・バター）需給の見通し】

第3四半期においても、上期に引き続き、乳製品向処理量は前年度を上回って推移することが見込まれる。しかしながら、その内訳であるその他乳製品（生クリーム等・チーズ）向処理量及び特定乳製品（脱脂粉乳・バター）向処理量については、その他乳製品需要が堅調であることから、第3四半期における特定乳製品向処理量は前年度と同程度で推移するものと見込まれる。

その結果として、脱脂粉乳については、第3四半期末における在庫量は37.8千トン（3.1ヶ月分）、前年比90.3%と、依然、前年度を下回る水準となることを見込まれる。

バターについては、7.4千トンのカレントアクセス輸入分に加え、2千トンの追加輸入も実施されたことから、第3四半期末における在庫量は、17.6千トン（2.7ヶ月分）、前年比106.8%と、前年度を上回る水準となるものと見込まれる。

6. 今後の課題と対応について

【需給動向を踏まえた今後の課題と対応】

(1) 牛乳類の不需用期における的確な対応

現時点の需給状況を踏まえると、都府県における特定乳製品向処理量は、学乳休止期を含めた年末から年始においては前年同程度からやや下回る水準になるものと見込まれる。しかしながら、本年度は比較的年末年始に休日が多いことから、飲用需要が減少し特定乳製品向処理量が例年以上に増加することも懸念される。乳製品製造の処理能力には限界があり、需給の僅かな変動や乳製品工場の稼働状況等によっても想定外の混乱が生じる恐れがあることから、酪農乳業関係者は、日々の需給動向や加工向処理の発生状況等の情報共有化に努めるとともに、的確な配乳計画や処理計画を策定し、適切なオーダー・配乳に努める必要がある。

(2) 牛乳乳製品の的確な需給調整・対策の実施

牛乳等の飲用需要は、昨年23年度においては前年度並みの比較的堅調な推移を示したが、24年度上期においては前年比98~99%程度で推移しており、今後第3四半期以降においては、より減少幅を広げ従来の縮小トレンドに戻りつつ推移するものと見込まれる。

また、脱脂粉乳・バターについては、23年度において、縮小基調で推移する消費量以上に生産量は減少傾向で推移し、在庫状況の悪化により供給制限が行われるなど、需要の喪失をより加速させる要因にもなったものと推察される。24年度に入っても、脱脂粉乳・バターともに消費量は依然減少傾向で推移し続けているが、一方で、生産面ではやや回復傾向を示しており、品目によって需給状況の様相が異なりつつある。

脱脂粉乳については、依然として在庫減少が続き一部で不足感は継続しているが、バターについては、追加輸入も行われ、最需用期に向けて供給に大きな支障を来すことはないものと推察される。

生乳生産基盤の維持・強化のための業界全体での取り組みは急務であるが、酪農乳業の健全な発展のためには、飲用及び乳製品の両面での需要喚起のための取り組みに注力していくことが強く求められる。

近年においては、原材料に乳製品を使用している乳飲料及びはっ酵乳が堅調な伸びを示していることから、これらを中心として飲用及び乳製品需要を喚起していく等、複合的に国産生乳の総消費量を高めていく方策が必要であると思われる。

こうした状況を踏まえ、酪農乳業関係者は、将来を見据え、牛乳乳製品需要の拡大に努めるとともに、業界全体で情報を共有化し、行政とも連携して計画的な生産・安定的な供給・適正な流通に努め、一般消費者も含めたユーザーに対する適切な需給情報の発信・需給調整に努めていく必要がある。